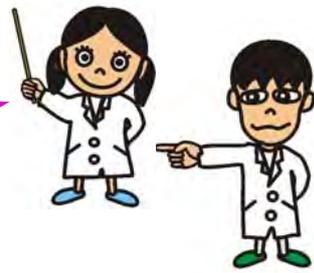


感染症に気をつけよう！



平成 24 年
12 月号

横浜市内の感染症流行状況

疾患名	流行状況	コメント
感染性胃腸炎	◎ ↑	10 月中旬から全国的に流行しており、市内でも報告数が急増しています。特に乳幼児に多く発生しており、年末にかけてさらに流行が予想されるため注意が必要です。下段の「今、気をつけたい感染症」で解説しています。
風しん	● →	全国的な流行はおさまってきましたが、関東や関西では流行が続いています。市内でも 11 月に入ってからも成人男性を中心に流行しています。流行をおさえ先天性風しん症候群を防ぐために、成人も予防接種を受けましょう。男性も接種することが大事です。詳しくは 感染症臨時情報 をご覧ください。
マイコプラズマ肺炎	● →	全国的に流行しており、市内でも報告が多い状況が続いています。長引く咳などがある場合は、医療機関を受診しましょう。

◎ 流行 ● やや流行 ▲ 散発

↑ 増加 ↗ やや増加 → 横ばい ↘ 減少

今、気をつけたい感染症 = 感染性胃腸炎



- ◆ ノロウイルスなどの感染が原因で、主症状は下痢・腹痛・吐き気・嘔吐等です。例年、冬に発生が増加し、保育園などでの集団発生も多いです。通常 2～3 日で回復しますが、乳幼児や高齢者では重篤な症状になることがあります。
- ◆ ウイルスを含んだ便や嘔吐物から口を介して感染が広まるため、予防には[手洗い](#)や、汚物の適切な処理と消毒、食品の十分な加熱が重要です。[消毒には次亜塩素酸](#)が有効です。
- ◆ 患者さんの[便や嘔吐物を処理する時](#)は、使い捨て手袋・マスク・エプロンを着用し、処理後は石けんと流水で十分に手を洗います。嘔吐物の処理の際、ウイルスが空气中に浮遊する危険があるので、十分に換気しましょう。
- ◆ 食品の加熱には、中心温度 85℃、1 分以上が必要です。次亜塩素酸が使えない物品の場合にも、よく下洗いした後に、熱湯やスチームアイロンなどの蒸気を用いて、この温度と時間の条件で加熱すれば消毒が可能です。
- ◆ ノロウイルスに感染すると、症状が改善してからも、1週間、長いと1か月程度はウイルスの排出が続くことがあるため、手洗い等の感染防止策が必要になります。
- ◆ 厚生労働省 [ノロウイルスに関するQ&A](#)



この資料は、11 月開催の横浜市感染症発生動向調査委員会の[市民向け報告](#)です。詳しくは[委員会報告](#)をご覧ください。市内の感染症流行に関する詳細は、[感染症発生状況](#)をご参照ください。[啓発用パンフレット](#)も作成していますので、ご利用ください。

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課（横浜市感染症情報センター）
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>

